

ひとつよりもふたつ以上の世界

話…稲葉玲王選手 いなば れお 一聞き手…上川柊人くん かみかわしゅうと 一文章…井手隆太



「サーフィン」というスポーツを知っていますか。サーフィンとは、ハワイやタヒチに住んでいた古代ポリネシアの人達が、せいれき西暦四百年ごろに始めたと言われている、千六百年の古い歴史があるスポーツです。

古代ポリネシアの人たちは、カヌーで珊瑚礁さんごしょうの漁を行っていました。押し寄せてくる波に漁師りょうしが乗って珊瑚礁の漁から帰るのがかつこよく、人々はサーフィンを楽しむようになったのです。しばらく経って、ジョージ・フリースという人が、カリフォルニアでサーフィンのエキシビションを行いました。彼は、最初のライフガードとも呼ばれ、一九〇七年には日本人漁師りょうし七名を救助したという記録も残っています。サーフィンは、観光地になっていくハワイの海に救助を担うライフガードの誕生にも大きな役目を果たしていたのです。

この物語は、二〇二三年八月十五日（日本時間は十六日）に、世界選手権でアジア二番目となり、二〇二四年のパリオリンピックのサーフィン日本代表に出場することが決まっている、稲葉玲王選手のお話です。



↑稲葉選手にインタビューをする柊人くん

下の QR コードを読み取ると、
インタビューの様子、サーフィンの体験の動画を見ることができます。



↑この QR コードは、
インタビューの様子です。



↑この QR コードは、
体験の様子です。

稲葉選手がサーフィンを始めたのは、五才。プロになったのは十三才です。サーフィンをはじめたきっかけは、プロサーファーでもある父の康宗さんやすむねに海に連れて行かれたことから始まりでした。初めは、嫌で涙を流しながら海に向かったと言いますが、気が付いたら、それが楽しくなっていて、毎日、自分から海に行くというのが当たり前になっていました。

稲葉選手は、トッププロサーファーになった今でも、サーフィンを離れたいはなと思うことがあります。稲葉選手の趣味は、「釣りをすること」です。しかし、二週間くらいサーフィンから離れていると、気が付くと波の情報を調べています。

柊人くんは、サッカーの試合の前にとっても緊張してしまい、気になってしまうことがあるとい
います。稲葉選手は、人前でしゃべるのは緊張してしまいます。逆に、大会では緊張したことが
ありません。他の選手は試合前、準備をしたり、海の状態を見たりしていますが、稲葉選手は試
合開始直前まで寝ているそうです。それができないと緊張する程、習慣になっています。

稲葉選手は、小学校四年生から国内各地へ行き、六年生からは国外であるハワイに行っていました。稲葉選手は、若いうちから「世界」へ出た方がいいと言います。日本では考えられないような経験が外国ではでき、どんな時も緊張をあまりしないようになると思います。

さらに、周りの仲間と関わることも大切だけど、「人と違うこと」や「違う世界」に出てみるのが成長につながるとも考えています。柊くんは、サッカーだけではなく、ピアノもやっています。朝三十分間は毎日練習をしています。それが、何かのヒントになるはずだと稲葉選手にアドバイスされていました。

稲葉選手は、夢や目標とは、無理に見つけるものではない。はまったことや、楽しいと思ったことに会って、一生懸命頑張れるものを見つけたら幸せ。それが目標や夢につながるのではないかと言っています。柊君の夢はプロサッカー選手。時間を見つけて仲間を自主的に練習に誘い、チームの練習以外にも頑張っています。稲葉選手は、一生懸命頑張れる「サーフィン」を見つけたから、夢があります。その夢は、「世界」の大舞台、パリオリンピックで金メダルを取ることです。



↑↓陸上でサーフィンの体験をしている様子

